



企業の価値ここにあり

自社内で大工を育て上げ 日本の家づくりを再生する

株式会社平成建設
代表取締役社長
秋元久雄



1948年、静岡県生まれ。高校卒業後、自衛隊体育学校に入校。その後、大手住宅メーカーに入社。8年間の営業経験を積み、地場有力ゼネコン企業などを経て、'89年に平成建設を設立。

父も祖父も大工の棟梁だった。自身もデベロッパやハウスメーカー、ゼネコンの営業畑で華々しい成績をあげてきた。しかし、建築業界に対して煮え切らない思いがあった。

——元請け、下請け、孫請けの構造が定着しているために、現場の職人は元請け会社の顔色ばかりをうかがって、施主の要望を汲み取れない。仕事にも心がこもらない。また、分業化で単純作業が増え、職人のやりがい失われている。腕のある大工は減る一方だ——。

そこで、秋元久雄氏は一九八九年に平成建設を

創業した。社員を技能工に育て上げ、大半の建設工程を自前でまかなう。社員は一人ひとりが複数の工程をこなす「多能工」だ。今では従業員四百名、年商は百億円を超える。静岡県沼津市の本社には、有名大学・大学院の卒業生が職人を志して集まってくる。

合理性を排して、やりがいを生む

創業時から変わらない経営者としての志のひとつは、「社員がやりがいを見つげられること」だと秋元氏は語る。この志は昨今の企業の考え方に対し

する強い疑いから生まれたという。

「建築業界を始めとして多くの企業が、社員からやりがいを奪う流れへと傾いています。合理性イコール生産性だと勘違いして、システム化にばかり頭を使い、誰にでもできる仕事を増やしているのです。しかし、仕事のハードルを上げる仕組みがないと、いずれやりがいはなくなるものです」

平成建設では、社員がやりがいを見つけられるように、合理化一辺倒を排している。「自分達で考えて答えを見出すことからやりがいは生まれる。分かりにくさをいとわず、みんなが知恵を絞る組織にしたい」と逆張りの発想を貫く。

家づくりから、日本のものづくりの再生を

アウトソーシングを始めとする合理化の時代に、同社は多能工の社員を着々と増やし、プロの建築技能工集団としてブランド力を高めている。価格競争にしのぎを削る同業他社を尻目に、「合見積もりは受けない」「安値受注はしない」「自社ですべて請け負う」という営業方針を貫いている。だが、



現場で活躍する若手社員

内製化によるコスト増はないという。多能工が複数の現場で効率的に仕事をこなす、社員同士が円滑に情報共有することで工期を短縮するからだ。売り上げはここ数年、対前年比約一〇%のアップで成長している。

この逆張り経営を支えるのが、「大卒大工」達の誇りとやりがいだ。秋元氏自身、小学生の時にモニターを自作するなど、ものづくりに魅せられてきた。

「子どもも大人も、ものづくりが好きな人は多い。しかし、教育ではものづくりが片隅に追いやられ、企業では合理化でものづくりとは呼べない単純作業を強いられる。家づくりから、日本のものづくりの再生に貢献したい」

今後の目標は「自社の大工を千人に増やすこと」。沼津の浜風が、職人魂の種子を運ぶ。